



# 一 般 質 問 通 告 書

平成 29 年 5 月 31 日

前  
午 11 時 35 分 受付  
後

下記のとおり質問いたしますから通告いたします。

平成 29 年 5 月 31 日

湖西市議会議長 二橋益良 様

湖西市議会議員 佐原佳美



質問方式 (○を付ける)	
	<input checked="" type="radio"/> 一問一答 ・ <input type="radio"/> 一括の質問答弁 ・ <input type="radio"/> 一括と一問一答
番号	主 題
1	不育症治療の支援について
2	
3	
4	
5	

※ 質問の要旨は別紙参照

番号	主 題
1	不育症治療の支援について
質 問 の 要 旨	
<p>(質問しようとする背景や経緯)</p> <p>私は、H27年6月議会一般質問において、まち・ひと・しごと創生 地方版「人口ビジョン」「総合戦略」の進捗状況を伺う中で、国が4つの基本目標に沿って策定するように示した内の3番目「若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる」のために、「男性不妊症を含む不妊治療費無料化と不育症治療費助成を加え「産む」ことへの支援をして若いカップルに定住してもらえる湖西市の売りにしてはどうか」と提案致しました。</p> <p>当時の三上市長は、「今年度から、男性不妊治療も県の補助対象事業となったので、市も県の方針に従いまして9月補正を議会に諮った上でスタートさせたい。総合戦略への実施事業へ加えることも検討していくが、不妊治療の無料化は検討課題とする。不育症治療費助成は、県が今年度から相談事業を始めたばかりにて状況を見守り、今後の市の判断とさせていただきたい。」と答弁されました。</p> <p>そして、男性不妊治療費助成は、答弁通り H27年9月議会で補正予算の承認を得て事業が開始されましたが、不妊治療費無料化と不育症への治療費助成は、検討課題からも風化したかのようです。</p> <p>ところが、静岡県議会では、H23年度から継続して、公明党の盛月寿美議員を中心に粘り強く議会質問し、不育症治療費助成の必要性を訴え、昨年12月議会の公明党代表質問に県知事が助成制度創設を約束し、今年度より静岡県の単独事業として保険適用外の治療費に県が2/10、市が5/10、本人が3/10の負担割合の費用助成と不育症患者交流活動や電話相談等不妊不育総合支援事業費、当初予算約2千万円が付きました。</p> <p>(質問の目的)</p> <p>「不育症」という繰り返す流産で悩み、悲しい思いをしている市民のために、治療費助成をして出産の支援と人口増を図って欲しい。</p>	

(質問事項)

- 1、湖西市民の不育症の状況を把握されているか。
- 2、現在の当市の対応は。また、他市の状況を把握されているか。
- 3、この県の新規事業を県の方針に沿い当市で実施する意向は如何か。

※ 質問の要旨は具体的に記入すること

一 般 質 問 通 告 書



平成29年5月31日

前  
午11時55分 受付  
後

下記のとおり質問いたしますから通告いたします。

平成29年5月30日

湖西市議会議長 二橋 益良 様

湖西市議会議員 土屋 和幸 印

質問方式 (○を付ける)	<input checked="" type="radio"/> 一問一答 ・ 一括の質問答弁 ・ 一括と一問一答
番号	主 題
1	障害者福祉施設への通所にかかる支援について
2	湖西市の奨学金について
3	
4	
5	

※ 質問の要旨は別紙参照

番号	主 題
1	障害者福祉施設への通所にかかる支援について
<p>(質問しようとする背景や経緯)</p> <p>現在、市内には障害を抱えながら一生懸命頑張っておられる方が大勢見えます。一人一人障害も違えばその能力も違います。ただ懸命に生きていることは同じであります。</p> <p>このことは、市内5ヶ所あります障害者就労支援A型・B型作業所に通われているみなさんも同じであります。</p> <p>一般就労を目指している人、居場所として作業所を利用する人など利用の目的はいろいろですが、障害年金や作業賃金のみという収入状況の方々も多いため、そのような方々への施設通所にかかる支援策について伺います。</p> <p>(質問の目的)</p> <p>施設に通う障害者に対しての支援を充実させるため。</p> <p>(質問事項)</p> <p>1. 私の調査したところ県内西部地域では、御前崎市、菊川市、牧之原市、掛川市、袋井市、磐田市、森町が通所距離に応じて1,000円～5,000円を助成しているようです。</p> <p>湖西市においても各市のような支援をする考えはないか伺います。</p>	

番号	主 題
2	湖西市の奨学金について
<p>(質問しようとする背景や経緯)</p> <p>社会を引き継いでいくためには、次の世代である子どもたちを育成してこそ、世の中が形成されるものであります。少子化でその担い手が減少していく現状を踏まえると、社会の根幹である行政の役割は特に重要であります。次世代育成事業は今や、湖西市としても行政力を十二分に発揮し、湖西市の方針の主幹でなければなりません。子育て支援はもちろん、教育の向上を図るうえでも「誰もが平等に教育を受ける権利」を守るためにも奨学金制度は欠かせない事業であると思います。</p> <p>さて、現状では、社会環境の変化による所得格差や、家庭状況によって、教育の平等が損なわれつつあります。湖西市から世界を目指す若者が多く排出されれば、市の知名度があがること、支援を受けた学生による地域貢献が期待できることで、新たな「まちづくり」が可能となるのではないのでしょうか。そのためにも十分な学費の支援が重要となります。</p> <p>(質問の目的)</p> <p>格差社会が進行していく中で、家庭の事情で就学がままならないという負の連鎖が起き、平等な教育の権利が失われつつあります。このような中で、毎年奨学金予算はほぼ例年通りの同額であります。これでは社会の変化に対応しているとは思えません。制度の新たな見直しが必要と思われます。</p> <p>(質問事項)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 平成28年度における湖西市の奨学金制度の利用状況は。</li> <li>2. 湖西市医学修学金及び看護師等就学資金の活用は少ないようだが、現状のままでよいと考えているか。</li> <li>3. 各種奨学金制度について、市として見直しを検討されているかお伺いします。</li> </ol>	